

# 大学での金融教育のための モデル講義計画と講義資料を公開しました。

社会に出る前の大学生の間に、金融リテラシーの向上を身に付けることは、とても重要です。金融広報中央委員会では、大学での金融教育に関するモデル講義計画と講義資料をウェブサイトで公開しました。

## 金融教育を受けた 学生の特徴

金融広報中央委員会が2016年に行った「金融リテラシー調査」では、金融に関する知識や判断力を問う質問とともに、こんな質問をしました。

「生活設計や家計管理についての『金融教育』を受ける機会がありましたか？」

この質問に対して、「金融教育」を受けた経験があったとした学生(※1)は、そうでない学生に比べて、(金融商品を購入するときに他の商品と比較する)、(お金に関する長期計画をたてる)など、望ましい金融行動をとる割合が高いということが、「金融リテラシー調査」を分析した結果として明らかになりました。

## 大学生を対象とする 金融教育

さて、金融経済教育推進会議(事務局・金融広報中央委員会)では、すでに

大学生が最低限身に付けるべき金融リテラシーについて体系的・具体的に整理し、「金融リテラシー・マップ」(※2)として公表しています。さらに、この整理に基づいて、大学における半期15コマ(2単位分)のモデル講義計画を作り、金融経済教育推進会議を構成する団体が講師を派遣するかたちで出張講義を行います(2017年度は全国10の大学で実施します)。

## 多くの学生に 金融教育を受ける機会を

このたび、大学において金融リテラシーに関する講義に関わる教育関係者の皆様に利用していただくために、2016年度に実施した講義計画と講義資料を金融広報中央委員会のウェブサイトを通過して公開することとしました。

ささほどの「金融教育」を受ける機会

「知るぽると」  
ウェブサイトを  
ご覧ください。

はありましたか？ との質問に対して、「金融教育を受ける機会があり、自分は受けた」と回答した学生は、学生回答者の14%に過ぎませんでした。これらの資料が多く大学の教育関係者の皆さまに利用されることによって、より多くの学生が金融教育を受ける機会に恵まれ、金融リテラシーの高い社会人として、人生の新たな一歩を踏み出すことを願っています。



慶應義塾大学での講義風景

